

震災豫防調査會歐文報告目錄（譯）

- 歐文第一號 (明治三十年十一月十六日發行)
 - 序文(本會調查事業概要) 菊池會長 一頁—三頁迄
 - 東京ニ於ケル緯度變化ノ觀測第一 同 三十一年六月十三日發行
 - 回報告 嘴託貞理學士 木村榮 一頁—二頁
 - 東京ニ於ケル緯度變化ノ觀測第二
- 歐文第二號 (同 三十一年六月十三日發行)
 - 回報告 嘴託貞理學士 木村榮 一頁—一六頁
- 歐文第三號 (同 三十三年四月二十日發行)
 - 姓名
 - 震災豫防調査會、會長、幹事、委員
 - 貴族院議員理學博士菊池大麓ノ同
 - 院ニ提出セル建議案 五頁—一一頁
 - 震災豫防調査會官制 一三頁—一四頁
 - 本會會長ヨリ文部大臣ニ開陳セル
 - 本會調查事業ノ概要 五頁—一三一頁
 - 煉瓦接合ノ伸張抵抗力試驗ノ成績
 - 人爲地震臺 田邊委員 三三頁—八三頁

- 歐文第四號 (同 三十三年二月十八日發行)
 - 木造耐震構造法摘要
 - 明治二十七年六月東京激震ノ際ニ
破壞セル烟突ノ調査 田邊、眞野兩委員 八七頁—八八頁
 - 日本火山調査ノ要旨 小藤委員 八九頁—一〇三頁
 - 煉瓦家屋内ニ於ケル地震驗測ノ一例 展野、中村兩委員 一頁—五頁
 - 明治二十四年十月二十八日濃尾大 地震概報 大森委員 一三頁—一二四頁
 - 明治二十七年六月二十日東京激震 概報 大森委員 二五頁—三三頁
 - 明治二十七年六月二十日東京激震 故關谷、大森兩委員 三五頁—三八頁
 - 明治二十七年三月二十二日北海道 大地震ノ餘震ニ關スル調査 大森委員 三九頁—四五頁
 - 岩石ノ彈性定數及ビ地震波傳達ノ 速度ニ關スル調査 長岡委員 四七頁—六七頁
 - 柱狀物體ノ轉倒及破壊ノ實驗

●歐文第五號 (同 三十四年二月十六日發行)

○明治三十一年七月ヨリ三十二年十

二月ニ至ル東京地動觀測ノ成績 大森委員 一頁一一三頁
一頁一一二八頁

●歐文第六號 (同 三十四年二月十一日發行)

○明治三十一年七月ヨリ三十二年十

二月ニ至ル東京地動觀測 大森委員 一頁一一八一頁
一頁一一一七頁

●歐文第七號 (同 三十五年十月十四日發行)

○上下動地震計 大森委員 一頁一一八一頁
田中館委員 一頁一四頁

○地震傳播速度測定報告 今村臨時委員 五頁一二四頁

○器械的感震機 今村臨時委員 二五頁一二六頁

○明治二十四年十月二十八日濃尾大

地震ノ餘震ニ就キテ 大森委員 二七頁一五一頁

●歐文第八號 (同 三十五年三月四日發行)

○日本ニ於ケル地震度數 一年中及ヒ

一日中ノ變化 大森委員 一頁一九四頁

●歐文第九號 (同 二十五年四月廿八日發行)

○鐵道橋梁ノ曲リ及ヒ振動ノ驗測

大森委員 一頁一六三頁

●歐文第十號 (同 三十五年六月十三日發行)

○東京地震驗測第一回報告 大森委員 一頁一一〇二頁

●歐文第十一號 (同 三十五年九月十八日發行)

○東京地震驗測第二回報告 大森委員 一頁一七七頁

○東京地震驗測第三回報告 大森委員 七九頁一九五頁

●歐文第十二號 (同 三十六年二月九日發行)

○水平微動計 大森委員 一頁一六頁

○物體ノ轉倒及移動ノ調査 大森委員 八頁一二七頁

○烟突振動ノ驗測 大森委員 二九頁一三七頁

○鐵道橋梁橋脚振動ノ驗測 大森委員 三九頁一五五頁

○煉瓦家屋壁震動ノ驗測 大森委員 五七頁一六五頁

●歐文第十三號 (同 三十六年五月十二日發行)

○明治三十三年東京一ツ橋ニ於ケル

地動觀測ノ成績 大森委員 一頁一一四二頁

●歐文第十四號 (同 三十六年五月二十七日發行)

○岩石剛性率ノ測定

嘱託真理學士日下部四郎太 一頁一七三頁

●歐文第十五號 (同 三十七年六月廿七日發行)

○地震器械ノ應用(汽車振動ノ驗測)

大森委員 一頁一七二頁

○震災豫防調查會和文及ヒ英文報告

ノ目錄 大森委員 一頁一一五頁

●歐文第十六號 (同 三十七年三月三十一日發行)

○東京ニ於ケル「ミルン」式水平振子

観測ノ成績 今村臨時委員 一頁一一七頁

●歐文第十七號

(同 三十七年八月八日發行)

○大阪ニ於ケル地震觀測ニ就キテ

○岩石彈性率ノ測定并ニ震波ノ速度

及ヒ餘震ニ關スル調査 日下部囑託員 一頁一四八頁

●歐文第十八號

(同 三十七年十月十六日發行)

○日本地震學近年ノ進歩

○複式水平振子地動計 大森委員 一頁一三頁

○水平微動驗測器械 同 上 五頁一二二頁

○緯度ノ變化ト地震トノ關係

同 上 一三頁一二一頁

○鮎川及ヒ三崎ニ於ケル海水面ノ高

サ一年中ノ變化 同 上 二三頁一二六頁

○月(太陰)ノ一日中ニ於ケル地震ノ分布

分布 同 上 二七頁一四〇頁

○太陰曆一ヶ月中ニ於ケル震地ノ分布

今村臨時委員 四一頁一七一頁

○深井内ニ於ケル水位ノ變化

本多囑託員七三頁一八九頁

○地震傳播速度ノ測定 今村臨時委員 九一頁一九五頁

○近距離ヨリ發セル地震傳播ノ速度

同 上 九七頁一一五頁

○驗潮儀記錄ヨリ潮汐ノ高低ヲ除去

スル器械 寺田理學士 一一七頁一一二〇頁

●歐文第十九號

(同 三十七年十月八日發行)

○大阪ニ於ケル地震觀測ニ就キテ

大森委員 一二一頁一一二五頁

○大阪ニ於ケル地震觀測ニ就キテ

大森委員 一二一頁一一二〇頁

○日本地震學近年ノ進歩 菊池委員 一頁一一二〇頁

○複式水平振子地動計 大森委員 一頁一三頁

○水平微動驗測器械 同 上 五頁一二二頁

○緯度ノ變化ト地震トノ關係

同 上 一三頁一二一頁

○鮎川及ヒ三崎ニ於ケル海水面ノ高

サ一年中ノ變化 同 上 二三頁一二六頁

○月(太陰)ノ一日中ニ於ケル地震ノ分布

分布 同 上 二七頁一四〇頁

○太陰曆一ヶ月中ニ於ケル震地ノ分布

今村臨時委員 四一頁一七一頁

○深井内ニ於ケル水位ノ變化

本多囑託員七三頁一八九頁

○地震傳播速度ノ測定 今村臨時委員 九一頁一九五頁

●歐文第二十一號

(同 三十八年三月二十九日發行)

○明治三十七年六月七日地震ノ記象

大森委員 七三頁一八三頁

二就テ

○暴風ノ際ニ於ケル水平振子記象

大森委員 一頁一三頁

○東京ニ於テ觀測セル地震ノ水平振

子觀測(震原相近キトキハ地震動

ノ相類似セルコト) 大森委員 九頁一一〇二頁

●歐文第二十一號附錄第一 (明治三十八年五月八日發行)

○一九〇五年四月四日ノ印度地震ニ就テ 大森委員一頁—四頁

●歐文第二十一號附錄第一 (明治三十九年五月三十日發行)

○一九〇六年四月十八日ノ桑港地震ニ

就テ 大森委員 一頁—三頁

●歐文二十二號B、第一章乃至第三章

(明治三十九年九月二日發行)

○表面壓ニ依テ生ズル不正及其地震

學上ニ於ケル應用 長岡委員 一頁—五頁

○定常的表面微動ニ就キテ 長岡委員 一七頁—二十五頁

○百五十八種ノ岩石標本ニ就テ施行シタル

運動的彈性率ノ測定、附其運動、靜止、兩

狀態ニ於ケル彈性率ノ關係 日下部囑託員 二七頁—四九頁

●歐文第二十二號A (明治四十一年三月廿一日發行)

○一九〇五年筑波山ニ於テ近距離地

震ノ觀測 大森委員 一頁—三九頁

●歐文第二十二號B、第四章 (明治三十九年十月十三日發行)

○熱海間歇泉ニ就テ (本多囑託員 五一頁—七三頁)

○歐文第二十二號C (明治四十一年三月二十九日發行)

○硫黃島列島ニ於テ短期現出シタル

火山島 火山島 脇水理學士 一頁—三三頁

●歐文第二十三號 (明治四十年七月二十五日發行)

○一九〇五年印度大地震報告、其一、(地震計記象)

●歐文第一十四號

(明治四十年七月三十一日發行) 大森委員 一頁—一六頁

●歐文第一二十六號 (明治四十一年三月廿日發行)

○一九〇五年印度大地震報告、其二、(地震計觀測) 大森委員 一頁—二七三頁

●歐文第一十五號 未成

●歐文第一冊第一號 (明治四十年二月五日發行)

○潮汐ノ副振動ニ就テ (本多理學博士、長田理學士、石井理學士 一頁—一一〇頁)

○序文 (紀要發行ノ主旨) (眞野會長 大森委員 一頁)

○或任意ノ地點ニ於テ觀測シタル初期微動

ノ繼續時間ヨリシテ遠地地震ノ震央地ニ

於ケル發震時ヲ計算スル方法 大森委員 一頁—四頁

○地震傳播ノ速度ヲ計算スル方法ニ

就テ (大森委員 一頁—四頁)

○一九〇六年四月十八日米國桑港ノ

○地靈ノ原因ニ就テ 大森委員 七頁—二五頁

○震ノ地震計記象ニ就テ 大森委員 二六頁—四三頁

○一九〇二年四月十九日グアテマラ 大森委員 四四頁—四六頁

○地震ノ傳播速度ニ就テ 大森委員 四四頁—四六頁

○一九〇五年九月八日伊太利カラブ

リヤ地震ノ東京觀測ニ就テ 大森委員 四七頁—五一頁

●歐文第一冊第二號

(明治四十年四月一日發行)

- 一九〇六年五月十七日ノ臺灣激震大森委員 五三頁—六九頁

- 濃尾、臺灣及桑港三地震ノ斷層ノ

- 比較 大森委員 七〇頁—七二頁

- 一九〇六年四月十四日臺灣地震ノ

- 傳播速度ニ就テ 大森委員 七三頁—七四頁

- 一九〇六年八月十七日ヴァルバラ

- イゾ及アリューシヤン地震ニ就テ 大森委員 七三頁—七四頁

●歐文第一冊第三號

(明治四十年七月五日發行)

- 近時ニ於ケル本邦地震ノ配布 大森委員 一一四頁—一二三頁

- 地動ノ各種位相ニ於ケル振動ノ

- 方向及大サニ就テ 今村臨時委員 一二五頁—一三二頁

- 中部日本ニ於ケル地震帶ニ就テ

- 信濃川流域ニ於ケル近時ノ強震ニ就テ 大森委員 一三三頁—一三七頁

- 寛政四年(西暦一七九二年)温泉獄

- ノ破裂ニ就テ 大森委員 一四二頁—一四四頁

- 初期微動ヲ現ハザル地震動 大森委員 一四五頁—一五四頁

- 鐵道橋脚ノ振動ニ就テ 大森委員 一五五頁—一五七頁

- ミルン式水平振子地震計ニ於ケル

- 空氣ノ微動ヲ除クノ方法ニ就テ：

- 今村臨時委員 一五八頁—一六〇頁

●歐文第一冊第四號

(明治四十年八月十日發行)

- 一九〇二年八月二十二日土耳古斯

- 坦カシユガル地震ノ觀測 大森委員 一六一頁—一六六頁

- 暴風ノ際ニ於ケル地面ノ傾斜 大森委員 一六七頁—一七一頁

- 鐵道橋梁ノ曲リ及振動ノ驗測(第二回)

- 簡單微動計 大森委員 一七二頁—一九〇頁

- 長週期ヲ有スル水平振子 大森委員 一九二頁—一九三頁

- 一九〇七年六月十一日東京附近ノ

- 地震記象ニ就テ 大森委員 一九四頁—一九九頁

- 歐文第二冊第一號

(明治四十二年三月二十八日發行)

- 微震動ニ就テ 大森委員 一頁—六頁

- 一九〇七年十一月二十二日東京地震(小引)

- 暴風ノ際水戸ニ於ケル水平振子ノ 大森委員 七頁—一二頁

- 紀錄 大森委員 一三頁—一六頁

- 東京及ビ京都ニ於ケル地震回數一
年中ノ變化（小引）……………大森委員 一七頁—二〇頁
- 近年ニ於ケル日本火山ノ噴火記錄
……………大森委員 二一頁—三四頁
- 日本ノ沿岸ニ於ケル海水面ノ高サ
……………大森委員 三五頁—五〇頁
- ノ一年中ノ變化ニ就テ（第二回報
告）……………大森委員 三五頁—五〇頁
- 琵琶湖ニ於ケル一年中ノ水位ノ
變化（小引）……………大森委員 五一页—五七頁
- 日本強震ノ記録……………大森委員 五八頁—八八頁
- 一九〇二年ヨリ一九〇七年ニ至ル
- 臺灣「ナイシャー」川鐵道橋梁橋脚
ノ耐震力ニ就テ（小引）……………大森委員 一九六頁—二〇二頁
- 地震ノ爲メニ破サレタル簡單ナル
煉瓦構造ノ例……………大森委員 二〇三頁—二〇五頁
- 破壞の地震ノ最大振動部ノ繼續時
間ニ就テ……………大森委員 二〇六頁—二〇九頁
- 雜報……………二一〇頁—二一三頁
- 歐文第一冊第二號（明治四十一年十月十七日發行）
- 地震ノ前震ニ就テ……………大森委員 八九頁—一〇〇頁
- 地震ノ副因ニ就テ……………大森委員 一〇一頁—一三五頁
- 信濃川流域及ビ日本海沿岸ニ於
ケル破壞的地震ニ就テ……………大森委員 一三六頁—一四三頁
- 近距離地震ニ於ケル初期微動繼續時間
ト震央距離トノ關係ニ就テ……………大森委員 一四四頁—一四七頁
- 臺灣ニ於ケル地震分布……………大森委員 一四八頁—一五五頁

- 一九〇八年一月十一日（臺灣）璞
石關及ビ梅仔坑地震ニ就テ……………大森委員 一五六頁—一六五頁
- 富士火山帶ノ地震ニ就テ……………大森委員 一六六頁—一八四頁
- 善光寺地震（一八四七年）及ビ天保
地震（一八三〇年）ノ餘震……………大森委員 一八五頁—一九五頁
- 臺灣「ナイシャー」川鐵道橋梁橋脚
ノ耐震力ニ就テ（小引）……………大森委員 一九六頁—二〇二頁
- 地震ノ爲メニ破サレタル簡單ナル
煉瓦構造ノ例……………大森委員 二〇三頁—二〇五頁
- 破壞の地震ノ最大振動部ノ繼續時
間ニ就テ……………大森委員 二〇六頁—二〇九頁
- 氣壓ノ長週期ノ變化ニ就テ……………大森委員 二一五頁—二二二頁
- 煉瓦柱ノ振動驗測……………大森委員 二二三頁—二二八頁
- 歐文第二冊第三號（明治四十一年十二月二十三日發行）